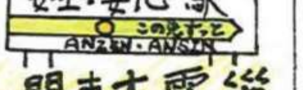
災害に負けない、！人々の生活を支えた鉄道

みんなで安全・安心な鉄道を


安全・安心駅
この先ずっと
ANZEN・ANSIN

～関東大震災から１００年～

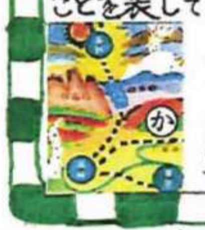
群馬県高崎市立
箕輪小学校
6年 柴山琴乃

関東大震災

約十万人が亡くなった関東大震災が発生してから今年で百年が経ちました。この地震が起きた九月一日「防災の日」となっています。当時これほど大きな地震でも、発生から約七時間後には一部の鉄道が復旧して多くの負傷者や救護に向かう医師等が鉄道により運ばれました。多くの人が駅に殺到し、列車の定員が千人のところ五倍の五千人もの人が乗り込み、それでも一日待っても乗れない人もいました。避難する人に対しては駅が臨時の救護所になったり運賃を取らずに乗車させたりと被災した人々の支えとなりました。そして震災によって大きな被害を受けましたが、震災を機に人々が郊外に移住したことで、多くの鉄道会社が開業して今のような鉄道網が構築されることになりました。

高崎線開業140周年

高崎線は1883年（明治16年）に開業し、今年で140周年を迎えます。関東大震災の発生後は高崎線の復旧が最も早く、多くの人が鉄道を利用して、高崎までひなんしたり、その先の長野、新潟や関西方面へ向かいました。群馬県の郷土かるた「上毛かるた」の「カン」の札は高崎が長野や新潟へのターミナルであることを表しています。震災翌日から、高崎では、市民が炊き出しや衣類の配布を行いました。支援物資としてお米やうどんのほか高崎名産の梅干しが鉄道で東京に送られたという記録がありました。当時からたくさんの人がボランティアで被災者を助けていました。



関東（かんとう）と信越（しんえつ）
つなぐ高崎市（たかさきし）
か

阪神・淡路大震災

今から二十八年前に発生した阪神・淡路大震災では、車両の被害のほか多くの高架橋が倒壊したり、駅舎やトンネルが崩壊しました。こうした中、各会社ごとに発行している定期券を相互に使えるようにしました。また、当時は、インターネットが普及する前で、線路が復旧していくたびに変わる臨時のダイヤを紙のポケット時刻表で発行するなど利用者のことを第一に考えていろいろな取組を行いました。当初復旧には一年半は必要と言われていましたが、わずか七カ月余りで、復旧し、鉄道の運転の再開で多くの人に安心をもたらしました。阪神淡路・大震災以降、鉄道の耐震設計が見直されたり、設備の補強工事が行なわれました。

東日本大震災

今から十二年前私が生まれた年（二千十一年）に発生しました。地震の揺れとともに、津波による大きな被害がありましたが、鉄道会社や乗務員の方々の適切な対応で多くの命が救われました。被災地の生活や捜索活動に不足していたガソリンなどの燃料の緊急輸送も鉄道が担いました。被災を免れた路線を使い、電気を必要としないディーゼル機関車を使ってタンクローリー千百台分以上の燃料を送り届けました。長期間の停電では駅員さんが動かない踏切で交通整理をしたり、消えた信号の代わりに手信号で誘導するなど、安全を確保するため、たくさんの方々が力を尽しました。

～後世に伝える～

三陸鉄道では東日本大震災を後世に伝えるため、被災し、復旧した路線に乗り、震災当時の様子や被災地の現状の説明を聞くことのできる『震災学習列車』を運行しています。

列車内の様子→

安全・安心のための鉄道の取り組み

鉄道会社の取り組み

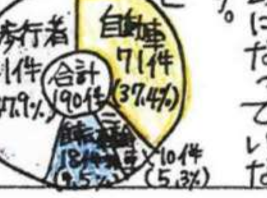
地震だけではなく、豪雨、土砂崩れ、浸水、強風、大雪で被災する可能性があります。このため「駅や橋りょうなどの耐震補強工事」「早期地震検知システムを整備して列車を緊急停止させる」「防水ゲートを設置して浸水を防ぐ」「天候の情報を素早く収集して備える」など様々な取り組みをしています。また、災害以外でも乗客の安全・安心を確保するため、左の図にあるような対策を行っています。

〈対策の内容〉

ホーム	・ホームドアを設置 ・転落検知マットを設置 ・ホーム下の退避スペースを作る ・内方線付きブロックを設置
踏切	・段差をなくす。 ・車道と歩道を分ける。 ・警報機を見やすく設置 ・非常押しボタンをわかりやすく表示 ・避難場所を設置 ・障害物検出装置を設置
防犯	・駅員さんが対策訓練を行う。 ・ホーム・車内に防犯カメラを設置 ・非常通報装置の設置 ・不審者検知・追跡システムを導入 ・警備員による巡回を強化
	帰宅困難者への飲料水や食料の配布

私たちができる取り組み

令和四年度の鉄道事故の件数は五五八件で、このうち踏切の事故が一九〇件（全体の三四・〇パーセント）でした。踏切の事故のうち、約半数が歩行者による事故です（左下の円グラフ）。おどろいたのが、列車が来る直前に横断して事故にあう人が多いということです。またホームからの転落事故も一〇七件あってこのうちお酒に酔った人の事故が四七件（全体の約四四・〇パーセント）でした。転落しただけで事故になっていない件数はもっと多くあると思います。みんなが踏切で「止まって、見て、聞いて」「警報が鳴ったら渡らない」ことや駅のルールを守れば事故は減らせると思います。利用者も一緒に鉄道の安全安心を守っていきましょう。



「記者の目」

今回関東大震災から百年目の年に災害時の鉄道の役割や当時の状況を調べてみて鉄道の復旧が日常生活を取り戻すだけではなく、人々に安心を与えてくれることが分かりました。また日本のどこかで一日一件以上鉄道に関する事故が起こっていることも分かりました。安全な運行が鉄道に関わる人たちの努力によって成り立っていることを知りました。利用する私たちもルールを守ることで事故にあわずにより安全・安心に鉄道が利用できると思います。これからも安全・安心な鉄道が続くといいなと思いました。